

中日新聞 9月25日掲載

今年はい勢湾台風発生55年の節目の年。台風のみならず南海トラフ巨大地震等の大地震によっても物的・人的被害が多数発生する恐れが想定されています。
南警察署、南区役所、当社の3者が災害発生時に連携して救出、救助のために重機の活用が必要と認められる場合、無償でクレーンを提供する協定が結ばれました。

一とした。飲むなら運
転しないように周囲
も声を掛けて」。集ま
った人たちに啓発用品
を配り、握手や写真撮
影に応じた。
(藤嶋宗)

重機リース会社 災害救助で支援

南署などと協定

風水害や地震に備え
るため、クレーン車三
百五十台を持つ建設・
重機リース会社ミック
(南区元塩町)は二十
四日、南署、南区役所
と、区内の建物などが
倒壊した際に重機で住
民の救助などを支援す
る協定を結んだ。

南区は、一九五九
(昭和三十四)年九月
二十六日の伊勢湾台風
で、全国最悪の千四百
十七人が犠牲になり、
住民の防災意識が強い
土地柄。当時十九歳のミ
サラリーマンだったミ



ツクの大山永吉社長(左)は、区内の社員寮から避難する途中で暴風雨に襲われ、濁流を流れる丸太につかまって助かった元被災者だ。
ミックで締結式があ
協定書に調印する(左か
ら)中村署長、大山社長、
吉戸課長、南区元塩町で

り、大山社長と中村正
孝署長、区役所総務課
の吉戸禎博課長が調
印。大山社長は「地域
の防災のために、役に
立てる機会をずっと待
っていた」と語った。
中村署長は「伊勢湾台
風から五十五年の節目
に意義深い協定が結べ
た」と応じた。

よもやま事件帖



ある日の深夜、武豊
町の集合住宅に住む女
性から、「ピンポンタ
ッシュをされた」と平
田署に通報があった。
チャイムが鳴ったの
で、来訪者の様子を映
し出すモニターを見た
が誰もおらず、怖くな
り通報したという。署
員が女性の自宅に到着
するのとほぼ同時に、

捨てたもんじゃない
1人の女性が犬山署を訪
れ、「近くのショッピング
センターで携帯電話を落
した」と届けた。
かなり捜し回った様子で
「見つかる確率は何パーセ
ントか」などと心配しなが
ら帰宅した。その日の深
夜、女性から「センターか
ら無事に見つかったの連
絡があった」とお礼の電話
があった。
署管内では財布を落とし
た外国人の届け出もあり、
お金もそのまま戻ってき
旬、守山区内

非常に